

令和4年度第2回行政評価委員会（人づくり・地域づくり部会）会議録

1 開催日時

令和4年8月29日（月）13：30～15：20

2 開催場所

花巻市生涯学園都市会館3階 第4学習室

3 出席者

（1）委員6名

市島宗典委員（部会長）、高橋利光委員、八木浩委員、小原幸子委員、
工藤望委員、多田葵委員

（2）説明者（施策関係部、施策主管課、施策関係課）4名

教育部：菅野圭部長

こども課：大川尚子課長

地域福祉課：玉山美由紀児童家庭係長

国保医療課：岩清水千佳子公費医療係長

（3）事務局（施策及び事務事業担当課）

財政課財務経営係：小原広幸課長補佐兼係長

秘書政策課企画調整係：菊池遼主査

4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「子育て支援の充実」について評価を行った。

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（2）委員会の評価結果の集約

5 議事録

（1）施策主管課による説明、質疑応答

（市島宗典部会長）昨年度の振り返りを踏まえた反映状況について、令和3年度に開始した事業として就職支援金貸付というものがあるが、実績が分かれば教えて欲しい。

（大川尚子こども課長）本事業は新卒の保育士を対象とした事業であり、昨年度中に、新たに保育士の確保のため取り組める事業を検討し、昨年度11月に補正予算を組み、12月ぐらいから事業の周知を図っていたが、やはり時期が年度末に差し掛かっており、既

に働いている方が多いことから申請はなく、令和3年度の実績はゼロであった。ただし、新たな事業を設けたことで、保育士養成校等、就職活動中の学生さんに向けてPRすることが出来たので、保育士確保に向けた成果として表れてくることを期待しているもの。

(市島宗典部会長) それに関連して、待機児童数が減っていないため、就職支援金貸付等保育士の確保策を様々実施されていることは理解したが、保育士が不足しているというのは、これはそもそも、希望者がいないのか、それとも保育士になってもやめてしまうのか、どちらが理由として大きいのがまず重要だと思うがいかがか。

(大川尚子こども課長) 保育士確保のための様々な施策を紹介するために、毎年、近隣の保育士養成校を訪問し、様々な事業の説明などを実施している。その保育士養成校の先生方からは、保育所を希望される学生さんが減少傾向にあるため、保育士確保に向けた様々な取組は非常にありがたいと伺っている。また、残念ではあるが、保育士となっても、途中で退職される方も一定程度いるとのこと。市内の園長先生方ともお話する機会があるが、何とかして続けてほしいと思うが、やはり保育士の数が少なく、業務が多忙となったり、保護者への対応などに悩まれたり、退職してしまう方もいると伺っている。

(市島宗典部会長) そもそも保育士養成校に通っていても、希望される方が減ってきているということ、市内の保育園に勤めたとしても、保育士として十分になる前に、業務が非常に多くてやめてしまう方が多いということについてはよく理解できた。保育士が不足しているということは一番大きな要素で、そもそも希望される方も少ないし、なっても辞めてしまうということについて、学校の先生や、園長先生などのご意見などを調査されているということである。

(小原幸子委員) 学童クラブを充実させることも、保育所や学校に通ったりする人たちにとっての魅力となるのではと思う。たまたま私は、学童クラブの委員になっていて、年に何度か現場に呼ばれるが、そこでは、小学校1年生に英語の魅力などを教えたり、お茶の教室をやったり、さらにはダンスクラブをつくったりして学童クラブは充実してきているところ。子どもとコロナの関係で、両親も十分に働けない状況であるために、おばあちゃんが仕事を辞めて面倒をみることとし、お母さんは勤めに行くなどの状況が耳に入ってくる。

(高橋利光委員) 成果指標の達成状況について、達成度がDとあるが、令和2年度に実施したアンケート結果と比べると、わからないと回答した人の割合が多い。これは、そのアンケート自体を掘り下げて検討して、令和3年度は実施したものなのか、令和2年度と令和3年度は同じ内容のアンケートを実施したものなのか。

(大川尚子こども課長) 令和2年度と令和3年度のアンケートの設問は同じである。ただし、令和3年度は選択肢を選んだ理由を記載する欄を新たに設けた。しかし、満足している理由の記載は多かったものの、その逆は少ない傾向にあった。

(高橋利光委員) 参考までに虐待について、市内には多くあるものか。いろいろな方か

らの通報は結構あるものか。

(玉山児童家庭係長) 地域福祉課内に児童家庭相談室を設けており、家庭相談員3名を配置して、虐待に関わらず保健相談等を受け付けている。令和3年度における児童虐待相談受付件数は81件となっていて、前年度70件だったものと比較すると11件の増となっている。ただし、虐待といっても、よく報道されるような身体的な虐待や重大事案での一時保護件数は令和2年度における30件ほどに対し、令和3年度は5件であり少ない状況にあった。ではなぜ虐待の件数が多くなってきているのか。これは身体的な虐待のほかに、心理的な虐待も虐待件数としてカウントされるため。例えば、お父さんとお母さんが夫婦げんかをしていたところ、騒動が大きくなり警察に通報されたところを子供が見ていたなども含まれる。このようなケースが平成30年度から急激かつ全国的に増えてきており、警察通報あったものが必ず児童相談所に心理的虐待として通報され、カウントされるようになったためである。件数が増えてきているというよりは皆さんの目が行き届くようになって、心配なケースはすぐ相談が行くようになってきているという裾野が広がってきた結果ではないかなと思っている。

(八木浩委員) 皆さんの関連質問であるが、それぞれの成果指標の達成状況が2つともCであるため、総合的にDではなくCでいいのかなと思うが、これはなぜか。また、保育士の処遇の改善等、保育士確保が課題だということで、保育士になっても待遇があまりよくないなど全国的に同様の理由があって辞めてしまうのか、忙しい割に給料がそれほど見合うものではなく、辞めてしまうのか。報道を見ると、保育士には若い方々がいると感じるが、処遇改善が課題であるのか伺いたい。さらに、全国的に赤ちゃんポストの利用者というものがあるようだが、市では赤ちゃんポストのような形で命を、尊厳を大切に育てていくような施策を考えているものかの3つについて質問する。

(菊池遼秘書政策課主査) まず1点目の施策評価シートの達成度について、事務局から説明する。施策で掲げた成果指標の実績値が達成率90%未満の場合は、達成度C判定と自動判定がなされる。さらに複数ある成果指標のうち、この達成度の何がいくつあるかで成果指標全体の達成度が自動判定される形となっている。今回は2つある成果指標のどちらも達成度C判定であるため、達成出来なかったという達成度Dになるものとして内部評価を行っている。

(大川尚子こども課長) 2点目の保育士の処遇改善について、国でも保育士の処遇改善には取り組んでおり、例えば保育士の勤続年数やキャリアアップなどによって人件費に加算をするという制度により少しずつ賃金は上がっているところ。また、国が令和3年度に補正で対応した保育士等処遇改善臨時特例事業は、保育士や学童支援員等の賃金を9,000円程度引き上げるというものであり、市からも市内施設に活用してもらうよう案内し、実施いただくなど、処遇改善については、少しずつではあるが、進んでいると捉えている。

3点目の赤ちゃんポストのような取組について、市では、母子手帳の交付などの機会

を通して、子どもに愛着が持てない妊婦などのケースをある程度把握はしており、生まれる前から関わりを持って、様子を見ながら、必要に応じて対応しているという状況はある。

(市島宗典部会長) 今の保育士の処遇改善について追加で質問をしたい。国の補助金等を使って徐々に改善しつつあるというが、待機児童が多いのは、花巻市が特に多いのか、近隣市町はどうか、近隣との処遇の差というのが見られているのかどうか、それを見ないと恐らく花巻市だけをみていてはなかなか改善していかないと思う。

(大川尚子こども課長) 待機児童については、県からも毎年決まった時期に調査があり、花巻市では何年かぶりに待機児童が発生したが、近隣の市町でも何か所かあるということである。ただし、4月1日時点では、盛岡市や北上市は確かゼロであったと記憶している。それから処遇については、近隣市町の状況というものは把握していないところである。市内施設の処遇については、法人ごとにそれぞれ違うため、一律に花巻市だけが低いとか、高いとかそのようにお答えすることは難しい。

(工藤望委員) 子育てに関するアンケートであるが、3歳児健診アンケートと出典に書いてあるが、3歳児健診の際にのみそのアンケートを行っているのか、それとも段階的に年齢に合わせて、いろいろな世帯からアンケートをとっているのか確認したい。

(大川尚子こども課長) こちらの成果指標の測定に使用している3歳児健診アンケートについては、その年度の3歳児健診を受けた子どもと保護者を対象に行っているアンケートであり、年を追って実施しているものではない。

それから市のほうで、子育てに関する計画をつくっているが、5年間の計画なので、それを作る前に、就学前の子供たちや、小学生を持つ保護者等を対象としたアンケートを行っており、今後の予定としては来年度、少し大がかりなアンケート調査を実施する予定となっており、それらも様々な施策に反映させるように努めていく。

(多田葵委員) 施策の総合的な評価における課題に、子育てに関する相談窓口について十分に認知されていない状況があると記載があるが、SNSを活用して周知を図る具体案はあるか。また、今後の方向性に記載のある子育て応援アプリについて、今年度6月から開始となったようだが、現時点での利用状況はどの程度か。

(大川尚子こども課長) 順番は逆になるが、子育て応援アプリとは、母子モというアプリのことであるが、今どれくらいの方が利用しているかというところまで資料を持ち合わせておらず、後ほど確認して御連絡させていただく。

SNSについては、市のホームページに載せると、ツイッターやフェイスブックに一度は掲載されるようになっているので、周知はできるが、もっとSNSを使ったほうがよいというご意見を結構いただくため、若い方々のご意見を伺いながら、なるべく早めに取り組めるように考えていくこととして、今後の方向性のところに記載したところ。

(高橋利光委員) 現状と課題について、子育てに関する不安や悩みに関する相談が多いという。男女共同参画という考えから、今は男性も育給が取れる時代なので、女性にと

って幾らかは負担が減っているのではと思うが、子どもの育つ支援ということも必要な一方、親が育つという活動機能の充実という考えがあれば教えて欲しい。

(大川尚子こども課長) どのような相談が多いのかについては、様々なアンケートの結果からみると経済的支援に関することが結構あると思う。そしてひとり親家庭等が増えているなど、家庭の形態も様々となり、それぞれ抱えている問題というものも多岐にわたっていることや、子どもとのかかわり方がわからない方、周りに家族、親戚とか、そういった知り合いも少ないという中で子育てされている方も多く、気軽に話ができる人が欲しいなども相談内容の中にはあると捉えている。

親に対する支援について、子どもの保育所入所相談に関わってみると、親御さんへの支援の必要性がある家庭がもしかしたら増えているのではないかなという感覚がある。まず、経済的なことや、もしかしたら発達に関わってくるかなというものが見えたときには、福祉部局と情報共有したり、健康づくり課に何か情報を押さえていないかなどを確認したりしながら、親と子どもについて一緒に支援できるような形で動くようには心がけているところ。

(菅野圭教育部長) 男性の育休に関連して、男女共同参画を担当する部署で様々な啓発活動をしているが、なかなか企業に対し周知していくのは難しいところ。しかし最近はや青年会議所が市内でワークライフバランスの講座を開くなど積極的で、市もこれに協力して進めているもの。

(市島宗典部会長) 他になければ、ここでヒアリングおよび質疑応答を終了とする。

(2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(高橋利光委員) アンケートの結果が目標に対し、令和2年度、3年度とどんどん乖離してきたというのは、結局、そのアンケートの内容を変更していないからではないか。もっとアンケート内容について掘り下げて検討するべきではなかったかと思うが。

(市島宗典部会長) 先ほどの説明では設問を変更せず、理由記載欄のみを追加したということで、満足された方はたくさん書いたが、不満を持たれている方はあまり書いていないため、これ以上分析出来なかったという説明だったと思う。今の高橋委員の発言に関連して、相談体制が充実しているかという設問に対しては、相談体制がどのようになっているかをまず知っておく必要があると思う。また確認だが、この成果指標は令和5年度までは変えられないものか。

(菊池遼秘書政策課主査) 成果指標については、まちづくり総合計画中期プランに定めており、現在の施策評価シートに掲載されている成果指標は令和2年度から令和5年度までの指標を定めているもの。現在のまちづくり総合計画が令和5年度までの策定期間であり、現在、次期総合計画の策定に着手している。策定の際には、あわせてアクションプランという形で4か年の指標を定めていくということとなり、どのような成果指標

を立てていくかなど議論があると思う。

(市島宗典部会長) 成果指標は担当課が決めるものか。

(小原広幸財政課長補佐) 特に新規事業などの成果指標を新たに担当課で考えてくるときは、財政課においてそれを客観的に見て、その指標設定は妥当なのか検証した上で担当課に戻している。また、大規模な事業や取組となるとやはり単年度で成果を出せるものが少ないため、総合計画など中長期的な計画において長いスパンで物事を考えるときに、毎年指標を変えていると前年度比較がしにくいので、ある程度の年数は同じ指標で進めているもの。

②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(市島宗典部会長) 待機児童が多いのは保育士不足であるためということが書かれているが、その保育士の不足ということについて少し分析が足りないように感じた。

(小原幸子委員) 待機児童の状況とは少し離れるが、保育園におけるコロナウイルスの影響について、保育園内に感染者が出たために子どもが家で待機しなければならないが、親は働かなければならず、おばあちゃんが預かることになる。そうするとおばあちゃんの仕事がなくなってしまうという問題も子育てをめぐる状況には隠れているのではと思う。

③「施策を構成する事務事業の検証」について

(工藤望委員) 放課後児童支援事業の支援員の不足により待機児童も発生している学童クラブがあることから、待機児童の解消を図る必要があるとの記載があるが、放課後児童クラブのほうも支援員が不足しているので、そちらの対応策なども考える必要があるのではないか。

④「施策の総合的な評価」について

(八木浩委員) 支援員や保育士の不足は、実際に何人不足していて、何人いれば待機児童が解消されるのかという、データに基づく定量的な表現の仕方を検討してはいかがかと思った。

(市島宗典部会長) 今後の方向性のところ、周知が足りないから周知しましょうと書かれているが、実際解決しなくてはならないのは支援員や保育士の不足であって、それが周知で解決されるのかというところが私にとって最大の疑問である。ホームページと広報はなまきを活用するとしか書いておらず、でもそれはこれまでもしているという説明があり、これで解決するのであればもう既に解決してきたはずだが、これでは足りないから次に何か今後の方向性を考える必要があるのではと思うので残念なところである。

(高橋利光委員) そのとおりだと思う。もう少し掘り下げた具体策についてもう少しここに記載があればさらによいと思う。

(高橋利光委員) 中期プランや長期計画の中にも、恐らくリンクしてくると思うが、施設のハード部分の老朽化はここだけの問題ではないと思う。その場合に施策評価シートに記載があるのはもう既に計画に立てられて決められているからということか。

(菊池遼秘書政策課主査) まちづくり総合計画中期プランに施策の関連計画として掲載されているものにハード整備の事業が載っており、いつ取り組むものかは相互にリンクしている。

(高橋利光委員) 施策を構成する事務事業の検証結果と施策の総合的な評価の今後の方向性とは相互関係にある記載内容とするべきではないか。

(市島宗典部会長) 本日の部会はこれにて終了する。